

一月二十九日(水)

平成二十六年 金沢学院大学 入学試験問題 (一般入試A)

国語

(注意事項)

国語と記入・マークした解答用紙に解答しなさい。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10と表示のある問いに対して④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～8)に答えよ。

だれが、だれに向かって不平等を語り、その不条理を訴えるのでしょうか。何のために、何を求めて不平等を語らなくてはならないのでしょうか。そんな問いかけから、この本をはじめたいと思います。

人びとはいま、答えを求めています。いまの社会で一体、何がおこっているのか部分がしか見えてこなくて、物事を大局的にとらえることがますます難しくなっています。実際の生活も苦しくなる一方で、将来の見通しはよくありません。何よりも、われわれの子ども世代が自分たちより豊かで幸せな人生を暮らすことができるとは思えなくなってきました。へ a へそんな先行きが不安で見えにくい世の中だからこそ、人びとは明確な答えを探し、拠り所を求めています。しかし、はっきりした答えなどそうやすやすと見つかりません。この本では、世の中のこと、社会のことについて、一つの答えを一方的に提示するのではなく、読者と共に考えてみたいと思います。

不平等や格差はマクロ的な視点です。いうなればすべての者が、不平等や格差の対象になります。不平等と聞くと、貧困といった負の部分や格差をまず思い浮かべる人が多いと思いますが、^アだれが貧困かだけでなく、だれがお金持ちか、といったことも不平等の議論の一部です。その意味で不平等や格差はわれわれすべてを対象としたマクロ的な問題であり、さまざまな現象を少し離れて見る際の一つの枠組みともいえます。

しかし、物事をマクロな視点からとらえることなど、高台から下界を見ることが、所詮、頭でっかちのたわごとにすぎないという印象をもたれるかもしれません。しかしここでマクロ的な視点とっているのは、傍観者になるとか下を見下ろすといったことではなく、物事を **A** にとらえるという意味です。

それにしてもだれが不平等を語るべきなのでしょう。雨風を凌げる家があつて家族が共に生活する。毎日の三度の食事にも困ることもない。そんな者に、はたして世の中の不条理を語る資格などあるのでしょうか。その日の暮らしに困ることなく、ぬくぬくと生活する者にとつては不平等の不条理など、結局のところ、**B** でしかないのではないか。不平等な社会・格差社会での直接的な被害者でないような者が不平等を語ること自体、^イフキンシンといえまいか。貧困を語るには、貧困の不条理にさらされて、自らが問題の真っ只中にいてこそ真なる声を発することができるのではないか。そんな思いを抱く人がいると思います。

本当に貧しくて雨風を凌ぐところもなく、その日の食べ物もままならない人たちは、書店で格差や貧困についての本を実際に手にとつて、世の中の諸問題を語り合う余裕などないでしょう。彼・彼女らは日々の生活を送ることだけでも精一杯なのですから。

^ロ不平等の不条理を語るのには、ある意味、当事者でないからできるという面があります。不平等や格差の議論は、すべての者が当事者ですが、不平等の不条理にどれほどひどく、また頻繁に悩まされるのかは人によって違います。すべての事柄に人びとは当事者になりえませんし、すべてのことを体験することもできません。その一方で、貧困にある者しか貧困を語ることができないということはなく、当事者になりえないからこそ語りえることがあります。

ものごとを認識するには、ある程度の距離が必要です。少し離れるからこそ、そこに「ものごと」があるとわかるのです。その距離こそが、ある事柄の只中にいる当事者では見えにくい「ものごと」を見ることにつながります。(中略)

ただ、当事者であることと当事者でないこととは、^②ハイハンの関係にあるとも限りません。いまは当事者ではないけれど、社会の諸問題の当事者になる可能性をだれもがもっているからです。不平等を語るとは、すべての者がもつこの可能性を語ることです。そのことが、不条理にあう可能性を最小限に抑えることができるような社会制度の仕組みを考えていくことに通じます。不平等はわれわれ人間社会が生みだした問題であり、その不平等に伴う不条理をわれわれが解決していかなければなりません。

世の中は変わったとか、生き方が多様になったといわれるわりに、実際の制度もそれに付随する規範もまだ^③コウチヨク的です。さまざまな生き方があって、さまざまな人が生きています。このさまざまな現実があり、さまざまな当事者がいることを不平等や格差の存在と関連させて、社会の中での人の生き方を考えるのが本書の狙いです。

ここで「生き方」というと、自らが進んで積極的に選択したものといったイメージを抱く人がいるかもしれませんが。へ b へまた、「生き方」を選ぶにあたって、どれくらい、どのような選択肢があるかは人によって異なります。進学や就職、結婚や出産に、老後など、人生には節目がいくつかありその節目、節目で選択を強いられます。

例えば本当は大学に行きたいけれど、経済的に苦しいので就職することにした人がいます。当人にとって、高校を卒業して就職するという「生き方」を選んだわけですが、そこでは就職せずに大学に進学するという選択肢は現実的にはほとんどありませんでした。一方、大学に行きたいと特に思わなかったけれど、就職するにもどのような仕事につきたいのかわからないので、とりあえず、大学に行くことにしたという人もいるでしょう。これも大学進学という「生き方」の選択ですが、それを積極的に選択したというわけではありません。しかし、^④経済的にユウフクであるので、大学に進学することが実現可能な選択肢として彼・彼女にはあったわけです。へ c へつまり、これまで生きてきた節目、節目の選択は必ずしも積極的なものばかりではなく、時に不条理な選択もあります。選択肢の数や種類が人によって違うこと、また、特定の選択を周囲から期待される度合いが異なることなど、人生の選択には不平等がからんできます。この点を本書では、^⑤生き方の不平等として着目したいと思います。個人の選択の中身は多様です。へ d へ人生という長い時間枠の中での人びとの^⑥キセキを不平等という観点からとらえていきます。

人はそれぞれ、さまざまといっても、そのさまざまなことには階層性があり、不平等な状況が介在しています。^⑦個々人のさまざまな生き方といったミクロな現象を、すべての者を対象とする不平等というマクロな枠組みから議論するのが本書の狙いです。個々人の選択には本人の意志や^⑧嗜好だけでなく、たまたまの要素がつきまといまいます。そのたまたまの要素には良いこともあれば悪いこともあって、悪い偶然は不条理となって人びとを悩ませます。しかし、そこでの偶然なことを、たまたまだから運が悪かったね、と済ましてもよいものでしょうか。貧しい家庭に生まれて高校に進学することができなかったことを、たまたまだから仕方ない、と済ますわけにはいかないと思います。へ e へ

個人の選択に関与するたまたまの不条理を少しでも解消するには、社会という大きな単位でもってそのリスクを分散し、小さくしていくことが望まれます。

問1 傍線部①～⑤のカタカナに当る漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 1 ～ 5。

① フキン|シン

1

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ キン|ジトウを立てる
 - ④ キン|サの勝敗
 - ③ キン|ム時間
 - ② キン|ガ新年
 - ① ヘイ|キン点

③ コウ|チヨク

3

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ コウ|ソクを守る
 - ④ 大学のコウ|ギ
 - ③ コウ|ヒツとモウヒツ
 - ② コウ|ミヤクを掘り当てる
 - ① 論理コウ|ゾウを明らかにする

⑤ キ|セキ

5

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ キ|ドウ修正をする
 - ④ キ|スウとグウスウ
 - ③ キ|シ回生
 - ② 事件の詳細をキ|ロクする
 - ① 人生のキ|ロに立つ

② ハイ|ハン

2

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 事件のハイ|ケイ
 - ④ 旧制度をハイ|シする
 - ③ 戦場からハイ|ソウする
 - ② 郵便ハイ|タツ
 - ① 異分子をハイ|ジヨする

④ ユウ|フク

4

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 宇宙ユウ|エイ
 - ④ 全勝ユウ|シヨウする
 - ③ エイユウを待望する
 - ② ユウ|ユウ自適
 - ① フユウ|ソウの階級

問2 傍線部(ア)「だれが貧困かだけでなく、だれがお金持ちか、といったことも不平等の議論の一部です」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 6。

- ① お金持ちではないにせよ、普通の暮らしをしていると思っっている自分は、不平等社会の被害者と言えるかどうかを議論する必要があるから。
- ② 普通の暮らしをしている自分も、貧困の人も、お金持ちの人も、皆先天的な不平等社会に生きている事実が変わりはないから。貧困者に比べれば、自分は普通に暮らし不平等を免れているつもりでも、お金持ちに比べれば不平等社会の被害者になってしまいうから。

- ③ 著しく貧困な人間と、著しく金持ちの人間を除いたとしても、普通だと思っっている暮らし自体の中に不平等が蔓延しているから。誰が貧困で、誰が金持ちで、誰が普通の暮らしをしているのか、明瞭な尺度がないために不平等社会だといわざるを得ないから。

問3

A、

B

に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 7、8。

- ① A 7 相対的かつ大局的
- ② 鳥瞰的かつ間接的
- ③ 包括的かつ具体的
- ④ 絶対的かつ普遍的
- ⑤ 当事者的かつ直接的

① B

8

- ② 絵空ごと
- ③ 幻想的
- ④ 他人ごと
- ⑤ きれいごと

問4 傍線部(イ)「不平等の不条理を語るのは、ある意味、当事者でないからできるといいう面があります」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 不条理性の不平等の中にいる当事者は、あまりにも生々しい現実に直面しているので、忘れたくても語る意欲もわかないから。
- ② 不平等の不条理にあえぐ当事者は、お互いに不平等の中身が違っっていて議論がかみ合わないから。
- ③ 不平等の不条理に関しては、当事者よりも、ある程度離れた立場の方がかえって本質が見えることがあるから。
- ④ 不平等の不条理について語ることは、徹底した傍観者に委ねない限り、決して本質がわからないから。
- ⑤ 当事者だけで不平等の不条理を語ると、偏った見方だけが正論としてまかり通り、他の意見を封じてしまうから。

問5 傍線部ウ「生き方の不平等」とあるが、どのような意味でそう言えるのか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。
解答番号は **10**。

- ① 生き方の選択には、人生の節目、節目を乗り切った人とそうでない人との差が歴然としている、という意味で。
- ② 生き方の選択には、各々選択の条件や選択肢の違いが不可避的にあるために選択の仕方既に差がある、という意味で。
- ③ 生き方の選択は、人生の節目、節目で外から強いられるもので、決して当人の自由にはならない、という意味で。
- ④ 生き方の選択は、積極的に行える資質の持ち主とそうでない者との間に大きな差ができる、という意味で。
- ⑤ 生き方の選択は、周囲の期待の大きさの度合いによって結果に良し悪しの差ができてしまう、という意味で。

問6 傍線部エ「個々人のさまざまな生き方といったミクロな事象を、すべての者を対象とする不平等というマクロな枠組みから議論する」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は **11**。

- ① 個々人には不平等でありつつもさまざまな生き方があるが、不平等という視点がそれらをすべて掬い取れるかどうかを議論すること。
- ② 個々人の生き方はさまざまだが、不平等というテーマは人間共通のものとして議論する必要があるということ。
- ③ 個々人の運命は偶然に支配されるので仕方ないが、その運命が不条理か否かを人間共通の不平等という観点から議論するということ。
- ④ 個々人のさまざまな生き方を多様性の中に解消せずに、皆が対象となる不平等という視点から捉え直し意味づける議論をすること。
- ⑤ 個々人の運命や偶然に支配された生き方とはまったく異なる、不平等という普遍的な視点が可能か否かを議論すること。

問7 傍線部オ「嗜好」の読みとして適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は **12**。

- ① しゅこう
- ② ろうこう
- ③ しこう
- ④ じゃこう
- ⑤ すいこう

問8 左記の文は本文中のどこに挿入すればよいか。最も適当な箇所を次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は **13**。

挿入文（今の日本では自己責任論が叫ばれ、多様なライフスタイルが奨励されるわりに、実際に選ぶことができる「生き方」はそれほど多様とはいえません。）

- ① 〈a〉の箇所
- ② 〈b〉の箇所
- ③ 〈c〉の箇所
- ④ 〈d〉の箇所
- ⑤ 〈e〉の箇所

第2問 次の文章は、古井由吉の小説『水』の一節である。語り手と「宮倉（あの男）」は、大学時代の登山仲間であった。「宮倉」は「山に入ったら、一滴でも無駄に流してはならない」と説教師めいた口をきいて水分の節制を説き、厳しい水の管理者の役をつとめていたことがある。以下の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

あの男も病身かつかげだったとは、あの時には気づかず小言にいた。

三カ月後に咯血かつかげして療養所に送りこまれた。学部に進学してから年二回の定期①ケンシンを一度も受けなかったという、意外②にずぼらな面のあることが後でわかった。おまけにその年は就職する意思がなくて、レントゲン写真をふくめてその関係の書類をいっさい整えていなかったもので、病気はその時まで発見されずにいた。

こちらはその間に運よく最後のところで就職口③にありついて、手術前後の宮倉を何度か **a** 見舞ったあと、四月に地方へ飛ばされた。経過は順調とかいうことで、一年ほどで音信が跡絶④えた。

最後に宮倉に会ったのは、もう五年前になる。就職してからもちようど五年目で、結婚式の仲人役なせいどを大学時代の主任教授に頼みに研究室を訪れたその帰り、廊下で肩を叩かれて振向くと、一緒に山に登っていた頃とすこしも変らない子供っぽい顔がこちらを見て苦笑していた。なんだか五年という時間がこちらのからだにだけ流れたみたいなの、おかしな印象があった。

宮倉は四年の療養生活の後で復学して、いまは研究室に残ることに決まったということだった。喫茶店の椅子いすに、⑤けだるそうなからだを深くもたれこませていた。ただこうして坐すわっていられることに、ほっと息をついているような、安堵あんどの表情が全身にあった。退院してからもう一年も経たっていたのだから、やはり以前の友人にいきなり出会ったせいにはちがいない。喋り方も **b** 投げやりで、こちらが結婚のことを報告しても、すぐには反応できない様子だった。《シヤバ》という、以前のこの男にはどうしてもそぐわぬ言葉がしきりに口から出た。「重病人も、暗いことを口⑥にしているうちはまだまだ元気なんだ。将来のシヤバの生活のことを楽しそうに喋るようになるよ、もう長くない。不思議に、きまって長くない」などとだしぬけにつぶやく。

こちらにも結婚を前にして、独り暮らしの疲れが一度に出たせいから、からだの調子⑦がここところひどく悪かったもので、陰気な体験談に傾ける耳は持たなかった。話は跡切れがちになった。もしかするとこの男、療養所でも病人相手に水分の節制をやかましく説いてまわっていたのかもしれない、などと ⑧インサンな想像が頭をかすめたりした。そのうちに、宮倉はまた独り言のようにつぶやいた。

「俺、四年間に二人も、その夜のうちに死んでしまった人と、昼間なごやかに将棋をさしたことがあるものね」

一瞬、死者と将棋をさしたという風に聞えて、思わず耳を傾けた。それに、宮倉が勝負事をやると、相手にたいして容赦ようしゃなくなりそうなのもな気がした。

二人目の男のことを、宮倉は思い出し思い出し喋りはじめた。もう長いこと療養所⑨にいて、この数年は良くも悪くもならない患者だったという。将棋だけが好きで、すこしでも強い指し手が患者の中⑩にいと聞くと、すぐに談話室に連れ出しにくる。宮倉も入院中に腕を上げて、やがてこの男の目にとまった。宮倉は、むしろ型を楽しむ将棋だという。それで、この男の勝負本位の将棋が好きではなかった。 ⑪ロコツに毘わなを仕掛けてくる。 **c** はずしても、しつこく仕掛けてくる。それと同時に、病状の軽くない患者もいる中で ⑫エンギの悪い冗談を大きな声で連発して、こちらの気持ちを盤から逸そらすとする。そんなエゲツなさに眉をひそめて毘わなをはずしているう

ちに、結局自分の型を崩して、相手の術中に陥ってしまふ。

ひと月ばかり毎日のようにつき合わされたあげく、いよいよ厭気がさして、宮倉は d 男を避けていた。ところがある日、談話室にふらりと入っていくと、男が盤に向かつて一人で駒をいじっている。妙にやさしい姿をしてるなと見ているうちに、目が合つて、その時は (4) 宮倉も自然に盤の前に坐る気持ちになつたという。

「いろいろな人と指してきたけれど、あなたの将棋がやっぱいいちばん気持ちがいいな」と言つて男は駒を並べはじめた。

序盤から中盤にかけて、男は冗談口も叩かずに、(5) けれんのない駒組みで押してきた。中盤でいくつか駒のやりとりがあつたあと、大駒が互いに敵陣に成りこんで、局面は一気に終盤へ傾き出した、その時、これはもうどちらかの詰将棋になつていゝのではないかと、宮倉はふと感じた。どちらの勝かは、手をすこし先のほうまで読めば読み取れると思つたが、(6) ビネツのけだるくこもる頭が次の一手より先をはつきり読もうとしない。一手一手、これよりほかにありそうにもない形で、駒は進められていく。宮倉が駒を置くたびに、男は満足そうにうなづく。勝負というよりも、必然の成行きを二人して確かめあつていゝような風だつた。交互に打ちおろす駒の冴えた音を耳にしなが、宮倉は (7) 透明な睡気に似た気持ちの中へ引きこまれていった。結局、一手の差で、先手の宮倉の勝となつた。「いい将棋だつたなあ。これからは毎日一番ずつ、ていねいに指しましょう」と言つて男は立ち上がった。それから、二人は並んでガラス窓から暮れはじめた冬の空をしばらく眺めて別れた。

「(8) 滴にさしかかつた水の感じだね。流れの表面が滑らかになつて、吸い寄せられていくだろう」

そう言つて宮倉はコップの水に口をつけた。さつきからコップを右手に握りつぱなしだつた。雨に叩かれる歩道をガラス越しに眺めやつては、コップを唇に押しつけて、すこしずつ啜つてゐる。壁に立てかけた傘から滴る水が靴のほうへ流れ寄つていた。コップが空になつても、宮倉はまだ手から離さないで、薄い唇でガラスの縁をときどきかきかきかかると、ウエイトレスがそれを目に止めて水差しを片手に寄つてくると、すまなそうな顔になつて、コップをテーブルの端に e 差し出す。いっばいになつたコップを口もとに運ぶ時だけ、以前の重々しい手つきが蘇つた。

【古井由吉 『古井由吉自撰作品』二（河出書房新社）「水」による】

（注）「どちらかの詰将棋になつていゝのではないか」…「詰将棋」は「ある将棋の局面から王手の連続で相手の玉將を詰めるパズル」のこと。ここでは、どちらかが間違えずに連続して王手を指していけば、必ず勝てる局面になつていゝという意味。

問1 傍線部①～⑤のカタカナに当る漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んで答えよ。解答番号は

14
～
18。

① ケン|シン

14

- ① 彼女はインケンな性格である。
 ② 思い切ってボウケンに挑む。
 ③ 政府に本のケンエツを受ける。
 ④ 彼はケンチヨな業績を挙げた。
 ⑤ 不景気なのでケンヤクした。

② イン|サン

15

- ① 大きなイベントをキョウサンする。
 ② 被災地のサンジョウを悲しむ。
 ③ 様々な辞書をヘンサンする。
 ④ 全国各地の寺社をサンパイする。
 ⑤ 人生のシンサンをなめ尽くす。

③ ロ|コツ

16

- ① 都会でロトウに迷う。
 ② 大きなイロリを囲む。
 ③ 政治家がワイロで捕まる。
 ④ ロメイいくばくも無い。
 ⑤ 不純物をロカする。

④ エン|ギ

17

- ① 華やかなキョウエンを楽しむ。
 ② ヨウエンな婦人とすれ違う。
 ③ 和歌の掛詞やエンゴを勉強する。
 ④ コンピュータのエンザンは速い。
 ⑤ エンコンによる犯罪だと推理する。

⑤ ビ|ネツ

18

- ① たくさんのおウビをもらう。
 ② 風光メイビな土地を観光する。
 ③ いつでも使えるようジョウウビする。
 ④ 新しい流行が一世をフウビした。
 ⑤ 何があってもビドウだにしない。

問2 傍線部(ア)・(ウ)・(カ)の語句の本文における意味内容として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、19 ～ 21。

(ア) 「意外にずぼらな面のあること」 19

- ① 予想外にぼんやりとした顔つきをしていること。
- ② 意外に豪快で、細かいことにこだわらないこと。
- ③ 思いがけず、なすべきことを失敗してしまうこと。
- ④ 予想外にいい加減で、だらしないこと。
- ⑤ 意外にも他人に嘘をつく側面があること。

(ウ) 「けだるそうなからだ」 20

- ① 湿気や暑さで消耗しているような身体。
- ② 何となく億劫でやる気のないような身体。
- ③ 病気から十分に回復していないような身体。
- ④ 理由もなく怠けようと息をつくような身体。
- ⑤ 相手に打ち解けてリラックスしている身体。

(カ) 「けれんのない駒組み」 21

- ① 名人のように巧みな将棋の駒組み。
- ② 相手に対する思いやりのない駒組み。
- ③ はったりやごまかしのない駒組み。
- ④ 将棋の定跡に反するような駒組み。
- ⑤ 勝負本位でない型の美しい駒組み。

問3

空欄

a

e

に当てはまる適当な語を、次の①～⑤のうちから一つずつ選んで答えよ。ただし、同じ語を二度使用してはならない。解答番号は 22 ～ 26。

a 〓 22

b 〓 23

c 〓 24

d 〓 25

e 〓 26

- ① やんわりと
- ② おずおずと
- ③ あわただしく
- ④ しばらく
- ⑤ ずいぶん

問4 傍線部イ「おかしな印象があった」とあるが、どのような心情か。その説明として最も適当な次の①～⑤の中から一つ選んで答えよ。解答番号は 27。

- ① 大学時代の仲間に研究室の廊下で久しぶりに会ったので、自分も宮倉もまだ学生であるかのような不思議な感じ。
- ② 手術や療養所の生活を経てきたのに宮倉は以前と変わらず、元気で子供っぽい顔をしているので信じられない感じ。
- ③ 自分は既に就職して結婚も決まっているのに、宮倉はまだ研究室に残って学生時代と変わらないのを同情する感じ。
- ④ 自分は就職して五年目になるのに宮倉は大学時代とすこしも変わらず、自分だけが歳をとったような奇妙な感じ。
- ⑤ 宮倉は音信が跡絶えて心配していたのに今も元気な姿を見て拍子抜けがしたと同時に、とりあえず安堵した感じ。

問5 傍線部エ「将来のシヤバの生活のことを楽しそうに喋るようになって、もう長くない」とあるが、どのような意味か。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで答えよ。解答番号は 28。

- ① 刑務所の重罪人が出所後の一般生活のことを楽しく話すようになるのと、やがて刑期を終えるということ。
- ② 療養所の重病人が退院後の生活のことを夢みて話すようになるのと、命の先がもう長くないということ。
- ③ 悲観して暗いことばかり話していた病人が楽しそうに話すようになるのと、やがて退院できるということ。
- ④ 刑務所の罪人や軍隊の軍人のように療養所の病人は閉じこめられて、やがて自由がなくなるということ。
- ⑤ 重病人が退院後の生活を楽しそうに喋るようになって、回復してもう入院生活も長くないということ。

問6 傍線部(オ)「宮倉も自然に盤の前に坐る気持ちになった」とあるが、なぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで答えよ。解答番号は 29。

- ① 勝負本位のエゲツない将棋ばかり指すので誰も相手をしてくれず、その日一人で駒をいじっている男の孤独な姿をみて、宮倉はいじらしくかわいそうに思ったから。
- ② いつも自分の型を崩して相手の術中に陥ってしまうので男と将棋を指すのを避けていたが、その日男の妙にやさしい姿をみて、今度こそ罫をはずして勝てると思ったから。
- ③ 罫を仕掛けてくるような将棋を指す男を宮倉は嫌って避けていたが、その日の男は妙にやさしい姿をしていて、いつもの勝負本位のエゲツなさが感じられなかったから。
- ④ いつも負けてしまうので男と将棋を指すのを宮倉は嫌って避けていたが、その日の男は元気がなかったため、勝負事に容赦のない宮倉は今日こそは勝てると思ったから。
- ⑤ 罫を仕掛けてくるようなエゲツない男と将棋を指すのを宮倉は避けていたが、その日談話室でたまたま目が合ってしまった、何となく対局を断るのも気の毒だと思ったから。

問7 傍線部(キ)「透明な睡気に似た気持ちの中へ引きこまれていった」とあるが、「宮倉」のこういった状態を表しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで答えよ。解答番号は 30。

- ① 男との対局に熱中しているうちに、無意識のうちに何かに突き動かされて将棋を指しているような状態。
- ② 交互に打ちおろす駒の冴えた音を耳にしながら、病の熱の影響もあって心地よく眠気に誘われている状態。
- ③ 必然の成行きを二人して確かめあっているうちに、なぜか自然と自分が将棋に勝てそうな局面になった状態。
- ④ 夢を見るように将棋が進み、いつもの罫を仕掛けてくる将棋ではない美しい勝負になって喜ぶような状態。
- ⑤ 宮倉が駒を置きたびに男は満足そうにうなずくので、何だか得意気で気分が有頂天になったような状態。

問8 傍線部(ク)「滝にさしかかった水の感じだね」とあるが、この比喩は何を意味しているのか。本文全体を踏まえ、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで答えよ。解答番号は 31。

- ① 滝にさしかかった水が落ちる前に表面が滑らかになるように、二人の将棋がこれよりほかにありそうにない形で進められたこと。
- ② 滝にさしかかった水が吸い寄せられて落ちるように、必然の成行きを確かめあっているうちに一手の差で宮倉の勝となったこと。
- ③ 滝にさしかかった水が落ちる前に流れが急になるように、昼間に一緒に将棋を指した男が突然その夜に死んでしまったこと。
- ④ 滝にさしかかった水が落ちる前に流れが滑らかになるように、男が死の直前にやさしい性質になっていい将棋を指したこと。
- ⑤ 滝にさしかかった水が落ちる前に流れの表面が滑らかになるように、いつも将棋に負けていた男に宮倉が退院前に勝てたこと。